

まつえもん通信



第2号 令和7年11月7日 発行

◎自分で決める 自己の生活

これまでに、思い込みや決めつけにより、あなた自身が悔しい思いをしたことや、誰かを傷つけてしまったことはないでしょうか。

すべての人には、多様な個性や価値観があり、生き方や考え方もまた多様です。誰にとっても、これらを尊重されることは大切なことであり、人間の尊厳ともいえます。

次の事例を読んで、生き方や考え方を尊重することについて考えてみましょう。

美和さんは車椅子を常用する35歳の女性。以前は施設に住んでいましたが、3年前から、大阪のある町でアパートを借りて、一人暮らしをしています。美和さんは手足が自由に動かず、言語障害もありますが、口に棒をくわえてパソコンを操作するし、好奇心旺盛で、車椅子でどこにでも出かけます。食事やトイレ、入浴、着替えなどに介助が必要で、毎日介助者が交代でやってきます。近所に住む藤岡さんも、その一人です。

ある日の夕方のこと。美和さんがインターネットのチャットを楽しみ、介助者の藤岡さんが洗濯物をたたんでいる時でした。ピンポーン。玄関でベルが鳴りました。藤岡さんがとんでもいきました。

ドアを半開きにして、「どちらさまですか」と尋ねると、立っていた男性は、ある新聞の宣伝をはじめました。「なんや、勧誘か」と思った藤岡さんは、即座に「うちは結構です」と言い、ドアを勢いよく閉めました。

「あー。まったく、この忙しいのに」とつぶやきながら、藤岡さんは奥の部屋の美和さんのところに戻ってきました。美和さんは「今、なんやったん?」と尋ねます。

「勧誘ですよ、新聞の。すぐ断つとしました」と、藤岡さんはすらっと答えました。すると美和さんは、ちょっと困った顔をして、こう言いました。「あのね藤岡さん。ここは私の家やで。いらないと思っても、ひとこと私に聞いてほしいねん。断るかどうか、私が決めるから。」

藤岡さんは意外でした。「え? でも・・・。」

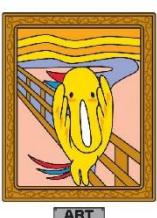


(出典:「動詞からひろがる人権学習」大阪府教育委員会、平成30(2018)年)

○このエピソードで、どんなところが気になりましたか。

○意外に感じた藤岡さん、困った表情の美和さんから、本人の意思を尊重するために必要な対応を考えてみましょう。

○あなたの身のまわりにも、子どもと親、高齢者とその家族等の関係において、思い浮かぶ同様の事例はありませんか。



※人権標語やポスターなども募集しています。くわしくは松下まで



社会的に弱い立場にいる人(子ども、高齢者、障害者等)は、保護の対象として見られ、意思や気持ちを軽視されたり、周囲の人に勝手に決められたりすることがあります。しかし、決める主体はあくまで「本人」です。思い込みや固定された見方、決めつけや先走った対応ではなく、できるだけ本人の考えを確かめながら「もしも自分が相手ならどうしてほしいか」ということを考えて行動してみてはどうでしょうか。

(出典:兵庫県教育委員会 高校生用教育資料『HUMAN RIGHTS - いま 私がひらく 未来 -』)